

サステイナブルキャンパス 推進協議会（CAS-Net Japan）
2019年次大会（第7回） 事例発表

大阪大学 箕面新キャンパス
（2021.12竣工予定、建設中）
移転に関連する周辺地域との協働

23. Nov. 2019

YOSHIOKA, Satoshi

大阪大学 サステイナブルキャンパスオフィス
キャンパスデザイン部門

大阪船場繊維卸商団地組合（隣接地権者）のご協力により、大阪大学撮影。
2019.03月末 → 10月末（2018年1月着工、2020年12月竣工予定）



Contents

1. 駅前再開発と周辺地域の概況
2. 駅前再開発とキャンパス移転プロジェクトの特徴
3. 箕面船場まちづくり協議会の活動と大学への期待
4. 課題
5. まとめと考察

1. 駅前再開発と周辺地域の概況

1-1 時系列と地理的な整理

1-2 市による大学キャンパス誘致と駅前再開発

1-3 各ステークホルダーの意図や関係性と
鉄道延伸と大学による周辺地域発展や
まちづくりへの寄与に対する期待

大阪大学

2007.10 大阪大学と大阪外国語大学が統合
旧外大が「箕面キャンパス」に。

2010 箕面CP一部を耐震改修バツファ活用開始

2011.1月 当時の鷺田総長が箕面CP移転に言及

2013 CP構想WG（平野総長・恵比須理事）

2014.2月 関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター整備方針を箕面市が公表（大阪大学協力）

2015.6月 当時の平野総長と倉田市長「CP移転に関する覚書」2016年3月正式合意を目指す

2015.8月 西尾現総長体制発足

2015.9月 箕面新CP移転準備委員会を設置

2016.2月 箕面新CP移転構想案 策定

2016.4月 大阪大学箕面キャンパス移転にかかる正式合意書締結

2016.9月 箕面新CP施設整備委員会へ体制移行

2016.12月 関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター設立・運営、2021.4開業の基本協定書

2017.1月 箕面 教育研究施設設計 委託者決定

2017.1月 箕面 学寮整備運営事業PFI検討開始

2017.2月 船場西連合自治会他とCD部門初会合

2017.9月 箕面新CPコンセプト公表

2017.12月 箕面 基本設計完了、LEED検討開始

2018.6月 新CP移転PT発足；移転に向けた施設系「以外」の実務検討開始

2018.8月 箕面 教育研究施設 実施設計完了

2019.1月 箕面 教育研究施設 着工

2019.11月 OU Global Campus（箕面新CP）会議設置

箕面市

2001 北急延伸計画を第4次総合計画へ位置づけ
（第3次1986年でも位置づけられていた）

2008.8月 倉田市長が当選

2011 大阪船場繊維卸商団地、都市再生調査報告

2012.5月 国循センター誘致「積極的に評価」

→同年末に、国循移転先が吹田市に決定。

2015.9月 議会で市長が市民病院移転に言及

2015.12月 北急電鉄に鉄道事業許可を交付

2016.2月 立地適正化計画を策定

2016.12月 船場団地再整備マスタープラン

2017.2月 新文化ホール要項等検討審議会立上

2017.2月 駅前拠点施設選定業務の受託者決定

2017.2月 船場小中学校検討調査の受託者決定

2017.10月 箕面船場地区 地区計画策定

本来、何を
するの
かが先に
立つべき

2019.5月 鉄道延伸事業の3年延期を発表

箕面新CPキャンパス移転に関する経緯など

- ・ 大阪大学 移転構想案（2016.2）
 - 「地域に生き世界に伸びる」
 - 「世界と市民を結ぶキャンパス」
 - 「周辺地域との調和がとれ、市民と共生し、かつ効率のよい集約化された、多言語・多文化共生が実現するキャンパスとする」
- ・ OUビジョン2021「Openness（開放性）」
- ・ “OUグローバルキャンパス” 構想、指定国立大学
- ・ 箕面市 地区まちづくり計画
 - 「船場地域においては、鉄道の延伸により"物流のまち"から"人流のまち"へと転換させていくことを念頭に置きながら、特別業務地区として発展してきたまちの特性を活かし、繊維卸商団地の再整備を中心に、新たな企業誘致によるまちの活性化をめざします」
 - 「文化と健康をキーワードにした高品質な都市空間を創出するとともに、空き倉庫や空きビルなどの既存リソースも活用して新産業を集積するなど、まち全体のリノベーションをめざす構想が動き出しています」

1km

MINOH
Campus
Current

SEMBA
West

SEMBA
East

SUITA
Campus

TOYONAKA
Campus

国土地理院の航空写真サービスより

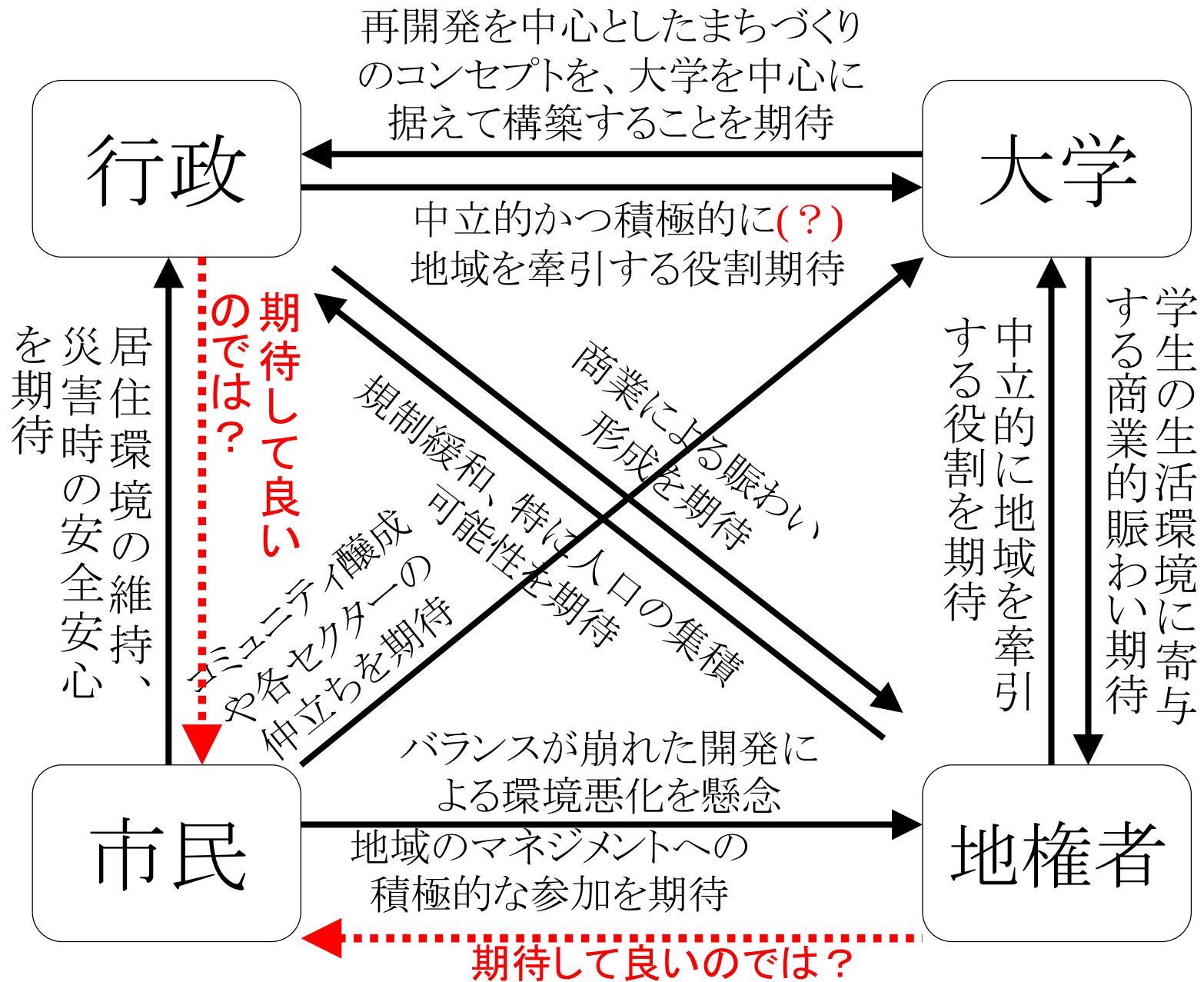
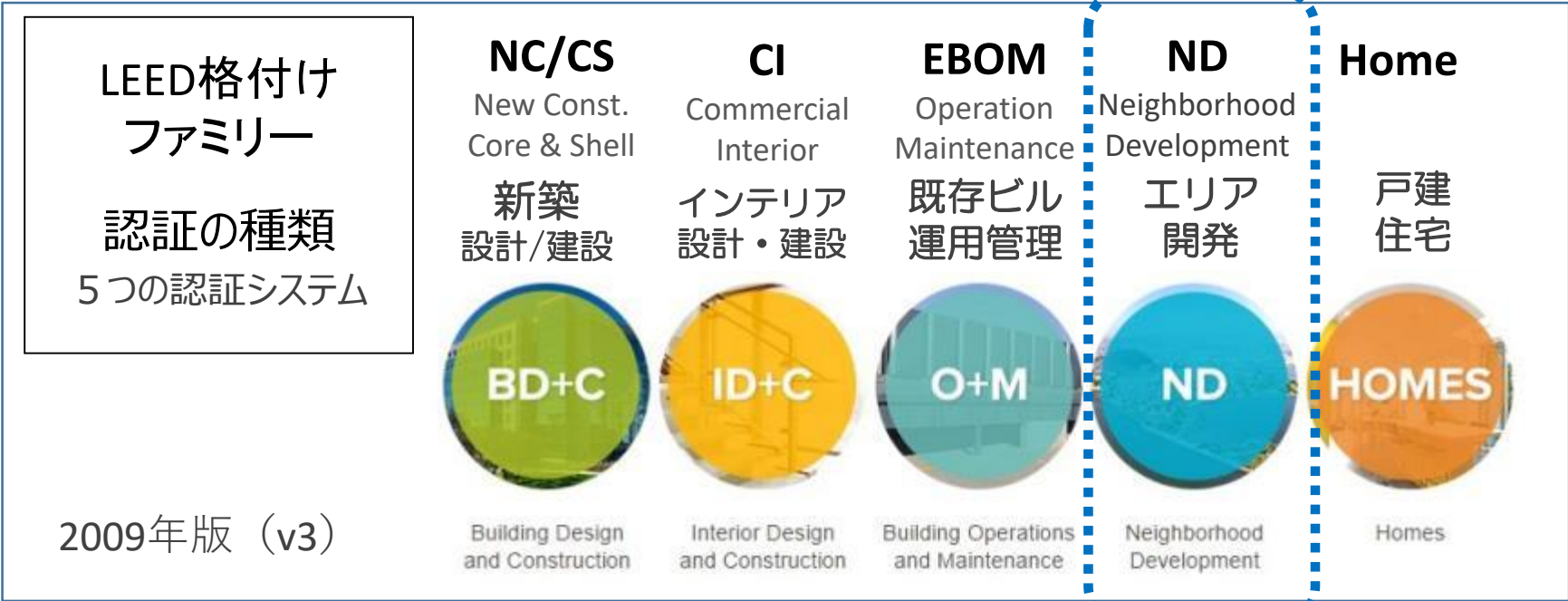


図. 再開発の主要なステークホルダー相互の期待

2. 駅前再開発とキャンパス 移転プロジェクトの特徴

- 2-1 キャンパスの環境配慮（LEED-ND予備認証済）
と、地域とともに発展するコンセプト
- 2-2 外国語学部と日本語日本文化教育センター
（旧 大阪外大）が中心となる新キャンパス
- 2-3 大学が指定管理を担う図書館（市立図書館
兼 大阪大学外国学図書館）と生涯学習施設
- 2-4 市が建設する駅前デッキや文化施設との接続

キャンパスの環境性能向上；わが国の大学で キャンパスとして初のLEED-ND 予備認証シルバー



2016年から
新バージョンv4
に完全移行

用途ごとに
21種類の
サブシステム

BD+C Rating System	ID+C Rating System	O+M Rating System	Neighborhood Development Rating System	Homes & Midrise Rating System
New Construction	Commercial Interiors	Existing Buildings; Operations & Maintenance (EBOM)	Neighborhood Development Plan	Homes
Core & Shell	Retail	Schools	Neighborhood Development	Midrise
Schools	Hospitality	Retail		
Retail		Hospitality		
Hospitality		Data Centers		
Data Centers		Warehouses & Distribution Centers		
Warehouses & Distribution Centers				
Healthcare				



Smart Location & Linkage

スマートな立地選択と周辺との関係

既存街区の再開発優先

車中心社会からの脱却(公共交通機関中心・自転車インフラ・歩道の整備)

生態系の保全と復元／職住近接



Neighborhood Pattern & Design

エリア開発形態とコミュニティデザイン

ウォーカブルストリート(人間のための街路・歩行者空間整備)

小さなブロック割りと密な街路網(交差点とネットワーク)

街区と建物の多様性(用途、規模、築年、収益性、住戸タイプ)、アフォーダブルハウス

コンパクトな開発密度、コミュニティ活性化、地域農業



Green Infrastructure & Buildings

グリーンインフラとグリーンビルディング

環境負荷低減(省・再エネ、省資源、節水、廃棄物管理、地域冷暖房)

ヒートアイランド対策、都市型水害対策、歴史的資産の保全

大阪大学箕面新のキャンパスのコンセプト

(今後、再開発エリア全体、さらには既存市街地とも協調し発展に貢献したい)

大阪大学全体
豊中・吹田・箕面
の3キャンパス
全学生数 22000人
教職員数 6500人
留学生数 2200人

箕面新キャンパス

外国語学部・言語文化研究科・
日本語日本文化教育センター・学寮等
学生数 3000人
(男女比=約4:6)
留学生数 約 300人
毎年約50カ国から留学

☆ 西日本全域に訪
れる優秀な国費
留学生の拠点 ☆

- ☆ 世界の言語と文化や社会に関する研究の集積拠点
- ☆ グローバル人材を育成する場
- ☆ 外国人留学生教育を通し世界に向けて日本語・日本文化を発信する拠点
- ☆ 外国語・外国学研究成果を介して交流できる地域と世界の接点
- ☆ 阪大の主要3キャンパスの交流ハブ

箕面市の文化・学術の拠点ともなる国際キャンパス

Osaka University GLOBAL CAMPUS

Osaka University Global Campus

グローバル キャンパス

スマート キャンパス

サステイナブル キャンパス

大阪大学

外国語学部・言語文化研究科・日本語
日本文化教育センター・学生宿舎

3キャンパスの交流拠点

世界の文化や言語の
多様性の縮図となる

生きた実験室
“リビングラボ”
でのICT活用

生活スタイルの
多様性とヘルスケア

人財育成、インターン
シップ、生涯学習の
フィールド

箕面市民

(多様な団体、参画のかたち)

日本の文化発信と
世界中の人々の
受け入れ・交流

モビリティ(交通)、
情報、エネルギー
基盤のスマート化

繊維とデザインの街

大阪船場繊維卸業組合

多様な民間事業者(参入を期待)

学生・研究者・企業
の世界進出拠点、
多様な文化圏への
マーケティング

地域特性と不動産
ストックを
最大限に活用

公共的スペースの
幅広い使い方を
可能にする**エリア
マネジメント**と
より広域的な連携

多様な民間事業者の積極的に関与・投資等を促すコンセプト

文化と言語の多様性に支えられた 文理融合の新しい産学官民連携

- (1) 学生（外国人/日本人）や研究者（大学/企業）、市民の交流を育む、再開発地区に留まらない多文化多言語交流のエリアマネジメント
→ 新キャンパスと既存市街地がゆるやかに連携しつつ発展
- (2) 阪大生・企業・市民にとって世界進出への足掛かりの場になる
 - ・ 25言語にわたって展開できる多文化多言語の研修・人財育成プログラム
 - ・ 学生・企業・市民は、「このキャンパスに集うこと」と「周辺のまちに出ること」が、留学や企業海外進出のきっかけ、あるいは多様な文化に触れる、または世界の多様な文化に対応するマーケティングの機会となる
 - ・ 留学生を含めた多くの学生が、インターンシップ等を通じてまちにコミット
- (3) 大阪大学 新箕面キャンパスを中心としつつ、周辺市街地の既存建物や民間施設、市の文化施設をフルに活用したプログラム展開
→ 周辺の既存不動産を活かして『世界の縮図』を新船場に創出
- (4) 産学連携による技術研究のシーズを多文化多言語にわたって実装していくためのベンチャー育成・実証フィールドとする

周辺地域の現況



現状分析～箕面船場地区の特色～

空きテナントや空き倉庫が増える一方で箕面船場地区の北側にはこだわりをもったカフェやアパレルショップが近年増えている。

若者の流入も見られ、まちの構成に変化が起き始めている地域となっている。

**今ある街のポテンシャルを生かしながら、
既存建物等を活用していくことが望まれる。**

船場地区のカフェやショップ



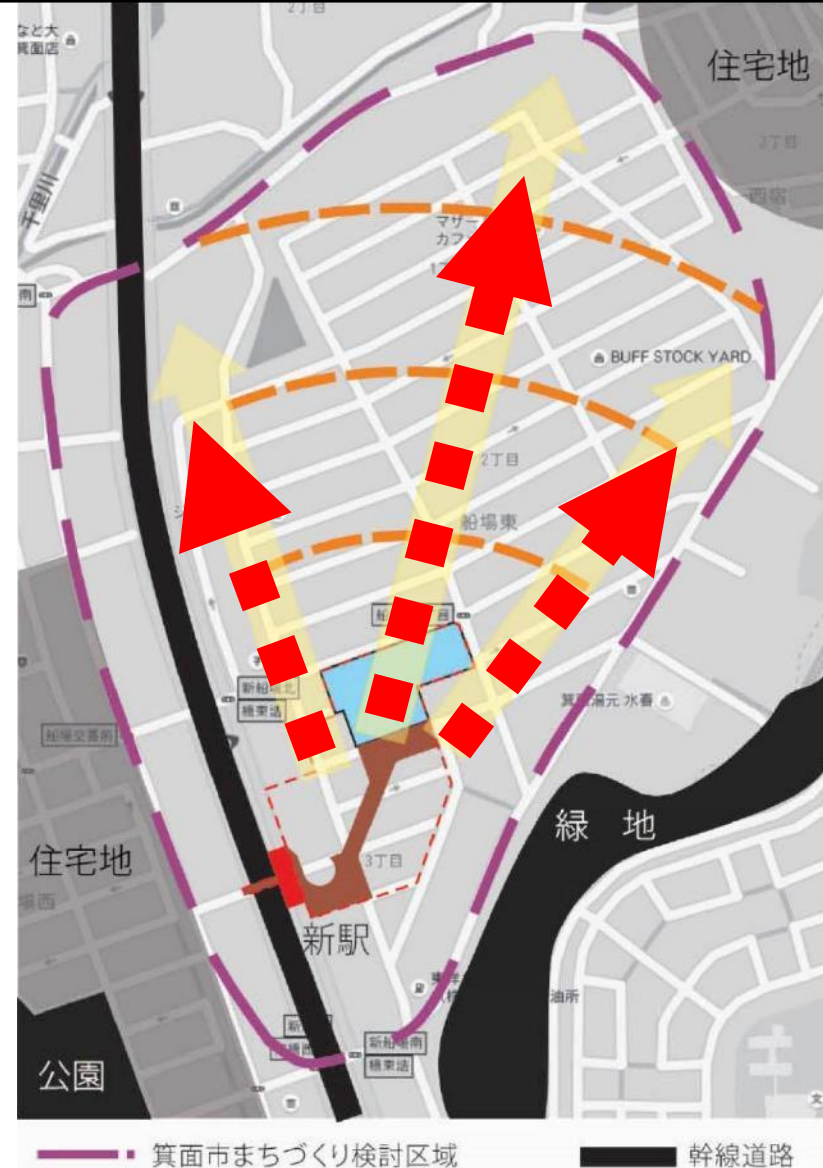
大阪大学がイメージする箕面船場東の
まちづくり

まちづくりの核となるキャンパス そしてまちへ溶け出すキャンパス

新船場駅（仮称）周辺市街地再開発を起
点とし、まちづくりは広がっていく。

本開発区域に含まれる駅前から大学、そ
して大学から北側に向けて広がっていく
動線がその軸となる。

空き倉庫やテナント等の、多様な不動産
ストックを、大学の教室やサークル室等
サテライトキャンパスとして活用してい
くことも期待しうる。



事業推進室会議（大阪大学新箕面キャン
パス整備の学内会議体）資料に追記

阪大外国語学部× みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン

イタリア～美食の旅～

日時 2019年3月21日(木)

19時～20時30分

場所 みのお市民活動センター

箕面市坊島 4-5-20 みのおキーズモール WEST1-2F

☎ 072-720-3386

イタリア料理と言えば、最初に頭に浮かび上がるのはパスタやピッツアですが、実は「イタリア料理」というものは、より複雑で奥が深いものです。それぞれの州、県だけでなく、そのなかの町や小さな村まで独自の名物料理を誇ります。こうして、パスタ、パン、肉料理、魚料理、デザートなどの種類は想像を絶するくらい多く存在します。また、それぞれの食べ物には歴史があり、イタリアの歴史と食文化は密接な関係に結ばれています。ここで、古代ローマから現代に至るまでの旅を楽しんでイタリア料理の魅力を味わいましょう！お話は日本語で行います。

お申込み・お問合せ 大阪大学外国語学部 ☎ 072-730-5013 FAX 072-730-5009

【講師】

Giulio Antonio Bertelli ジュリオ・アントニオ・ベルテッリ
1976年、イタリア・モデナ県生まれ。
ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学外国語学部(日本語・日本文学専攻)卒業。大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士前期・後期課程(日本語・日本文化特別コース)修了。近畿大学、京都外国語大学、大阪大学でイタリア語学講師を経て、現在大阪大学大学院言語文化研究科准教授。

主催：大阪大学外国語学部・みのお市民活動センター

2021年4月、阪大外国語学部は、箕面船場阪大前駅(新駅)付近に移転します！

本活動は、「大阪大学社会学共創クラスター」の取り組みの一つです。
<https://www.ucc.osaka-u.ac.jp>

<定員>

20人(申込順)

3/1(金)から受付開始

<参加費>

300円(資料・茶菓代)

イタリアのお菓子も

お楽しみに！

(お料理は出ません)

阪大外国語学部× みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン

映画でたどるイギリスの歴史

イギリスの歴史は、戦争や反乱、革命の連続でした。このサロンでは、イギリスに取材した映画をとりあげます。スコットランド反乱のリーダーを描いた『ブレバート』、ヘンリー8世の時代を描いた『わが命つきるとも』、『ブーリン家の姉妹』、アイルランドの独立の闘士の伝記『マイケル・コリンズ』、ジョージ6世やチャーチルの闘いにスポットをあてた『英国王のスピーチ』、『チャーチル』、鉄の女とよばれた女性宰相の時代に迫った『マーガレット・サッチャー』や『プラス！』などを通じて、イギリスが辿ってきた苦難の道をふりかえってみましょう。

講師 岡田 新

(大阪大学大学院言語文化研究科教授)
早稲田大学政治経済学部、名古屋大学大学院を経て、文部省在外研究員としてオックスフォード大学に留学。(イギリス現代史)



お申込み・お問合せ 大阪大学外国語学部
☎ 072-730-5013 FAX 072-730-5009

主催：大阪大学外国語学部・みのお市民活動センター
協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

日時 2019年4月18日(木) 19時～20時30分

場所 みのお市民活動センター ☎ 072-720-3386

箕面市坊島 4-5-20 みのおキーズモール WEST1-2F

<定員>

20人(申込順)

4/1(月)から受付開始

<参加費>

300円(資料・茶菓代)

イギリスのお菓子も

お楽しみに！



2021年4月、阪大外国語学部は、箕面船場阪大前駅(新駅)付近に移転します！

本活動は、「大阪大学社会学共創クラスター」の取り組みの一つです。
<https://www.ucc.osaka-u.ac.jp>



演劇部と文芸部
大阪府立大学から
誘われて本大会を開催します。

世界を舞台に
多くの学生が活躍しています。

最新にこの大会に
参加するの喜びを
ご体験ください。

2016 大阪大学外国語学部

語劇祭

11月26日(土)・27日(日)

大阪大学箕面キャンパスA416

入場無料！
日本語字幕あり！

主催
大阪大学外国語学部語劇祭実行委員会

後援
大阪大学外国語学部同窓会 校友会

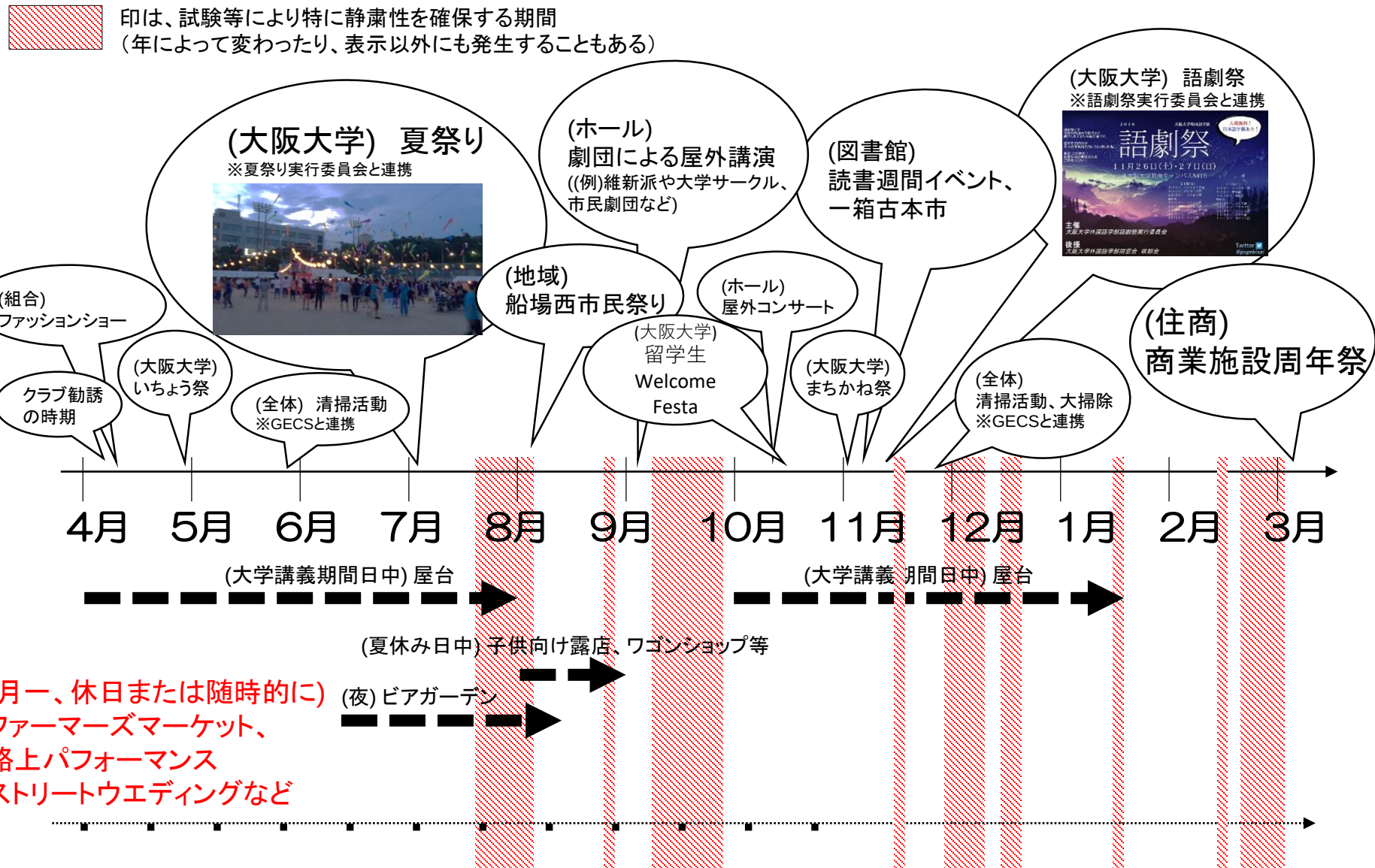
出演劇目

11月26日	11月27日
11時00分 オランダ語	11時00分 フランス語
11時30分 イタリア語	11時30分 スペイン語
12時00分 ドイツ語	12時00分 ポーランド語
12時30分 ロシア語	12時30分 中国語
13時00分 韓国語	13時00分 英語
13時30分 日本語	13時30分 英語
14時00分 英語	14時00分 英語
14時30分 英語	14時30分 英語
15時00分 英語	15時00分 英語
15時30分 英語	15時30分 英語
16時00分 英語	16時00分 英語
16時30分 英語	16時00分 英語

Twitter

@gogekisai

広場・デッキ(駅前再開発地区)の活用イメージ【参考】



※写真は夏祭り実行委員会、語劇祭実行委員会のHPより抜粋

(仮称)箕面船場駅前のまちづくり進行中!

新御堂筋をまたぐ幅6m程度の歩行者デッキを設置し、西側からの利用者の利便性を確保します。

新御堂筋



地上6階、地下1階の複合公共施設

箕面市公式発表資料、HPより

複合公共施設イメージ

6
・
5
階

生涯学習センター

自然光を取り込んだ吹き抜けの共有空間を中心に、会議室、音楽スタジオ、屋外運動施設などを整備します。

文化ホール

●大ホール(1401席)

クラシック音楽などの演奏に適した高い建築音響性能と、さまざまな演出に対応する舞台特殊設備を備えた、理想的な音場かつ臨場感のあるホールを実現します。

●小ホール(300席)

シンプルなボックス型形状で、多様なコンテンツの上演に対応します。

●付帯施設

2階のメインデッキに面した場所に飲食店などを誘致します。

図書館

3層連続の吹き抜けと段状に配置するウォール書架で、ダイナミックな空間を演出。3階にはグループ学習室、4階には一人掛けの学習席や閲覧席を多く配置します。また、2階には、子どもたちがのびのび過ごせる「にぎやかエリア」を配置します。

4
・
3
・
2
・
1
階

駐車場

24時間利用できる駐車場を整備します(普通車116台、自動二輪車86台)。

地下
1
階

箕面大滝をモチーフにした内装

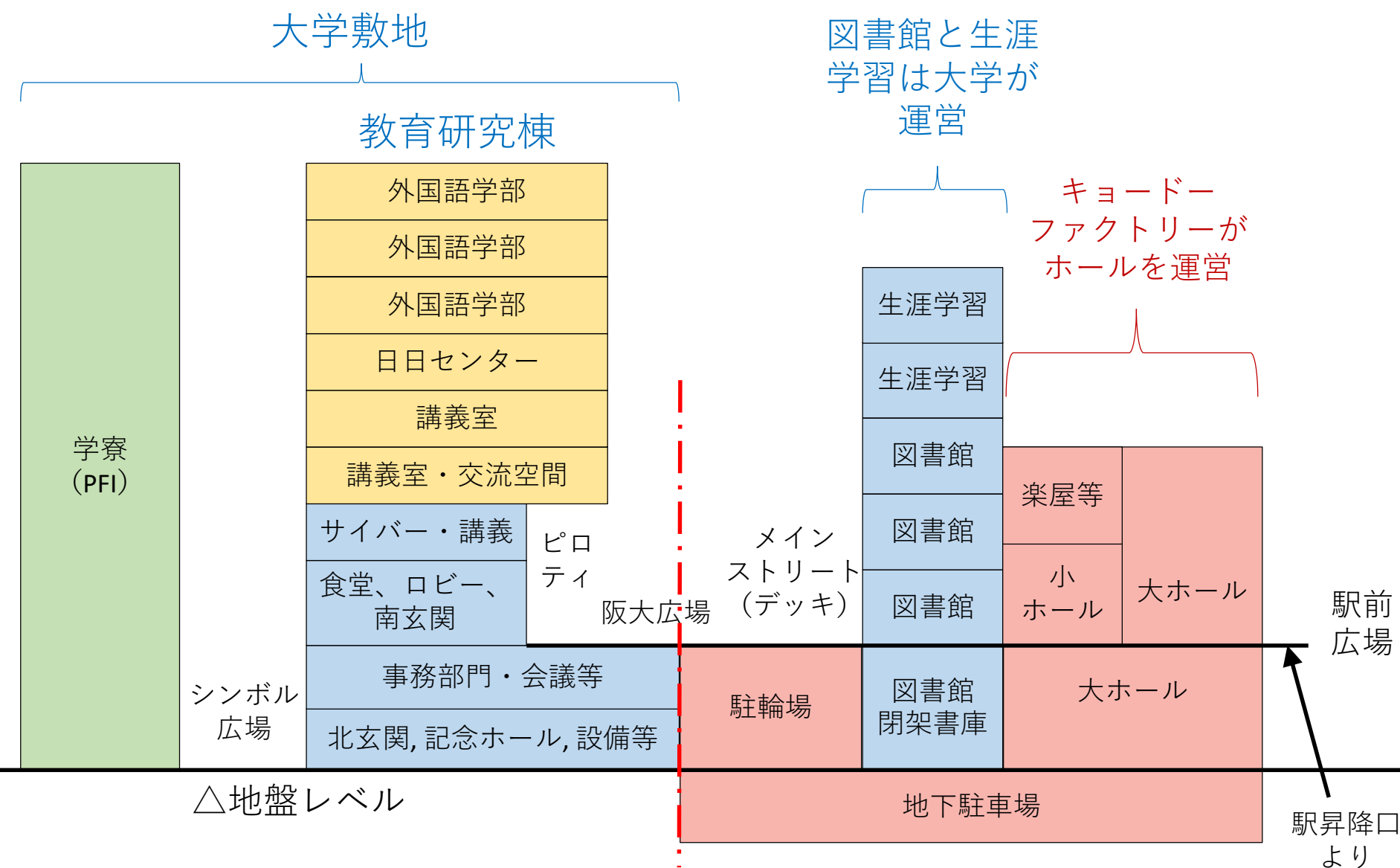


大ホール



図書館

先行開発地区（駅前再開発街区）における大学と市の施設構成



模式断面図 Model Section

2019.3.24.吉岡講演資料を一部修正





3. 箕面船場まちづくり協議会の 活動と大学への期待

3-1 市民の問題意識とまちづくり協議会

3-2 交通／防災／文化・子育てに関する検討

3-5 新しいコミュニティモデルの模索

箕面船場まちづくり協議会

(大阪大学CD部門は、アドバイザーとして参加)

⇔ 協働； 大阪大学 社会学共創クラスター

「箕面船場まちづくり・エリアマネジメントプロジェクト」

- 1) 既存自治会や小学校区ごと行政対応の機能不全、北大阪急行延伸・新駅設置・駅前再開発に伴う 周辺乱開発の危惧、世代（開発・再開発前後） と地域ごとの住民の分断が問題意識。
- 2) 自治会や学校区を超えて連携し、既存組織に横串を挿す住民コミュニティとして、2018年度末に一定の考え方をまとめる。
- 3) 分科会（文化・子育て、環境・防災、交通）を立上げ、役員等ボランティアに頼った組織にならぬよう、将来の事業化を目指した活動展開し、市民と連携事業者の参加を募る。
- 4) 箕面市、大阪大学、民間地権者等と、船場東地区と西地区の将来のあり方を話し合っていく。箕面市も注目。

箕面船場はきっと面白いまちになる



ひと まち ま～るくつながる
エリアマネジメント

箕面船場まちづくり協議会



箕面船場まちづくり協議会

- 2014年3月31日 北大阪急行延伸合意発表
- 2015年6月17日 大阪大学キャンパス移転発表
- 2017年2月10日 大阪大学キャンパスデザイン部と初会合
- 2017年3月26日 箕面船場まちづくり研究会
キックオフフォーラム開催
参加者：予想新校区自治会・
管理組合、地域団体、
大阪大学関係者
- 2017年4月16日 箕面船場まちづくり研究協議会
発起人会 予想新校区7自治会
- 2017年6月25日 箕面船場まちづくり研究 第2回フォーラム開催
テーマ：箕面船場地区全体の将来と船場東の再開発を考える
- 2017年11月26日 箕面船場まちづくり研究 第3回フォーラム開催
テーマ：まち歩き～船場東地区先行開発エリア
- 2018年3月21日 箕面船場まちづくり研究 第4回フォーラム開催
テーマ：年度総括～地域ソリューションの仕組みづくり～
- 2018年6月1日 大阪大学と杜学共創クラスター参画への協議
- 2018年7月15日 箕面船場まちづくり研究協議会・稼働推進会議
⇒箕面船場まちづくり協議会 発足
- 2019年3月24日 第5回箕面船場まちづくりフォーラム開催

船場西＋東地区の
全5500世帯超へ
配布なされた。



箕面船場エリア小学校区現行区分図



協議会の主要活動

いま、わたしたちのまちが、大きく変わろうとしています。
まちの造りが激変します。まちの居住者・利用者が大きく変わります。わたしたちにはどのようなプラスの効果、マイナスの影響があるのでしょうか。新しい人の交流は何を生むのでしょうか。箕面船場まちづくり協議会は、子育て、文化、交通、防災の分科会を設け、安心・安全なまちづくり、創造性豊かなまちづくり、誰もが楽しく個性を発揮できるまちづくりを考えられています。



※分科会のご案内は中面をご覧ください

箕面船場まちづくり協議会の歩み

- 2014年3月31日 北大阪急行延伸合意発表
- 2015年6月17日 大阪大学キャンパス移転発表
- 2017年2月10日 大阪大学キャンパスデザイン部門
と初会合
- 2017年3月26日 箕面船場まちづくり研究会
キックオフフォーラム開催
参加者：予想新校区自治会・
管理組合、地域団体、
大阪大学関係者
- 2017年4月16日 箕面船場まちづくり研究協議会
発起人会 予想新校区7自治会
- 2017年6月25日 箕面船場まちづくり研究 第2回フォーラム開催
テーマ：箕面船場地区全体の将来と船場東の再開発を考える
- 2017年11月26日 箕面船場まちづくり研究 第3回フォーラム開催
テーマ：まち歩き～船場東地区先行開発エリア
- 2018年3月21日 箕面船場まちづくり研究 第4回フォーラム開催
テーマ：年度総括～地域ソリューションの仕組みづくり～
- 2018年6月1日 大阪大学と社会学共創クラスター参画への協議
- 2018年7月15日 箕面船場まちづくり研究協議会・稼働推進会議
⇒箕面船場まちづくり協議会 発足
- 2019年3月24日 第5回箕面船場まちづくりフォーラム開催



箕面船場エリア小学校区現行区分図

「第5回箕面船場まちづくりフォーラム」レポート

第1回のキックオフフォーラムが開かれたのが2017年の3月26日。それから丸2年が経ち、このたび協議会として、これまでの活動の中間報告ができました。開催にご協力頂きました大阪大学から永田副学長、大内外国語学部長はじめ関係される方々にご出席頂き、この箕面船場地区のまちづくりの

先進性について、専門知の立場から会場に向けて熱く語って頂きました。会場には地域住民の皆様のほか、大阪船場繊維卸商団地協同組合、北大阪急行電鉄(株)をはじめとする企業、諸団体の皆様にもご参加頂き、盛況のうちに本フォーラムを終えることができました。この成果をバネにまちづくり活動をより積極的に進めてまいります。今後共なお一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。



新しい息吹に熱気あふれる会場



永田副学長より総括



今後ともまちづくりの情報を定期的に発信してまいります。

●あなたのご意見が住み良いまちをつくりまします

●4つの分科会へお気軽にご参加ください

まちづくり活動に参加ご支援をお願いいたします

2019.3.24に、第5回フォーラムを開催。
まち協発表と、学部長
+ 社会学共創本部長挨拶、
吉岡講演、意見交換

知力を集めて40年目の変身 箕面船場が拓く 新しい

1 市立病院 2024 年度移転

COM 1 号館+新船場北公園（調整池）の跡地に立替移転されます。北大阪急行の箕面船場阪大前駅～箕面萱野駅間の地上部口のすぐ東側になります。2027 年度小・中学校が現市立病院跡に開校予定です。



2 箕面船場阪大前駅(M07) 2020 年度内開業



歩行者専用デッキ⇔
エントランス駅連絡口・デッキ広場

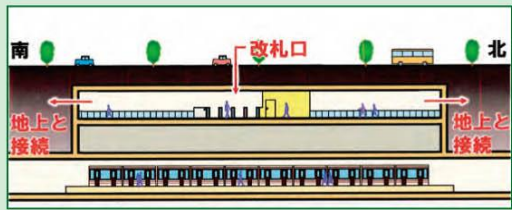
3 北出入口

COM 2 号館前
歩行者階段より
地下通路に接続



◎安全のポリシー

北大阪急行南北線は全駅に可動式ホーム柵を設置済です。新駅にも設置予定です。



4 南出入口 エントランス

歩行者 2 階デッキ 1 階地上部
昇降機・エスカレーター及び階段で地下通路に接続
自転車 計 1458 台
うちデッキ下駐輪場
自転車 950 台、原付 496 台
うち駅舎機械式駐輪場
自転車 508 台



箕面船場が拓く 新しい



極めて高い情報
収集力と展開力
は、大学や行政
の広報不足を
相当補っている

この絵は箕面船場まちづくり協議会が独自に制作した完成予想図です。

箕面船場まちづくり協議会 分科会のご案内

文化分科会

「文化力のあるまち」を目指します！

- 学びに優しいまち
- 感性を刺激し、創造性豊かなまち
- 多様な個性が交わるまち
- 熱いコミュニケーションのできるまち

トータルで
「文化力
のあるまち」



子育て分科会

私たちの想いを、みなさまへ

- こども達のつながりを大切にします
- 大阪大学とともに新しい学びの仕組みを作ります
- 地域とともに新しい学びの仕組みを作ります
- 「赤ちゃん学」の拠点を目指します



交通分科会

駅を中心とした交通事情が変わります

- 交通大動脈の延伸で広域移動がもっと楽に！
- 利用される人への安全と優しさを考えます
- 周辺の通行秩序と、接続を考えます
- 新市立病院へのアクセスを考えます



防災分科会

「共助」のエリアをつくります

- 防災拠点が身近にあるまち
- 普段から親密なコミュニケーションのあるまち
- 大学、地元企業、住民全体で考えるまち
- 防犯や、見守りの互助が広がるまち



夏以降、各部会で月1回、全体で毎週程度、会合を開いて検討している。

直近の検討事項（2019.10月）

文化分科会

- ・ 市民が企画するコンテンツ
- ・ 図書館（市立 兼 外国学図書館）の使い方や運用方針
- ・ 生涯学習センター

子育て分科会

- ・ 市による子供会支援打切への対策
- ・ 防災イベント（11.17予定）

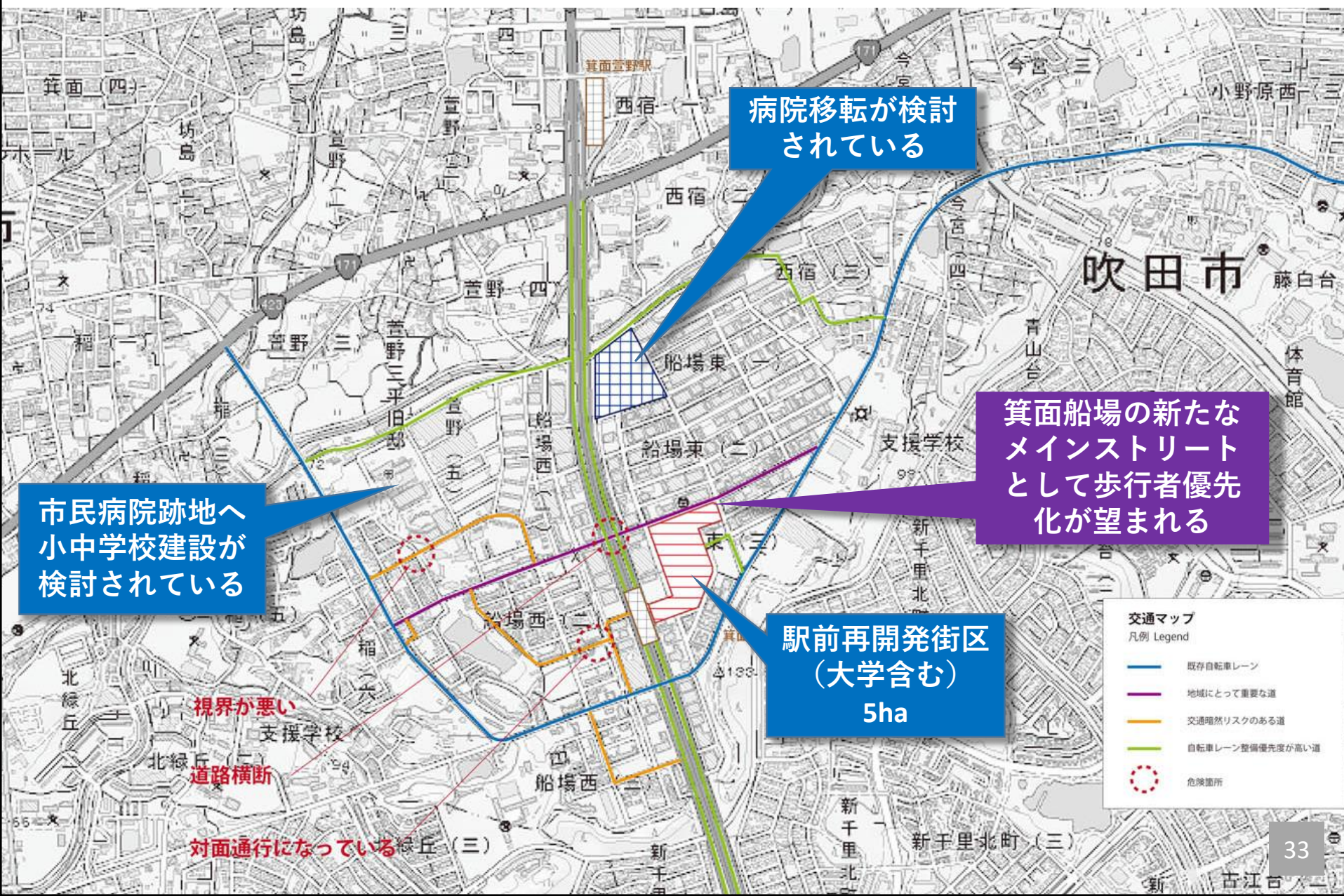
交通分科会

- ・ 病院移転や小学校建設を見越した船場東の歩行者動線の強化、安全性と回遊性の向上

防災 → 共生文科会

- ・ 日常使いができる重層的な「共生（防災）マップ」構築や、大学と連携した防災体制づくり

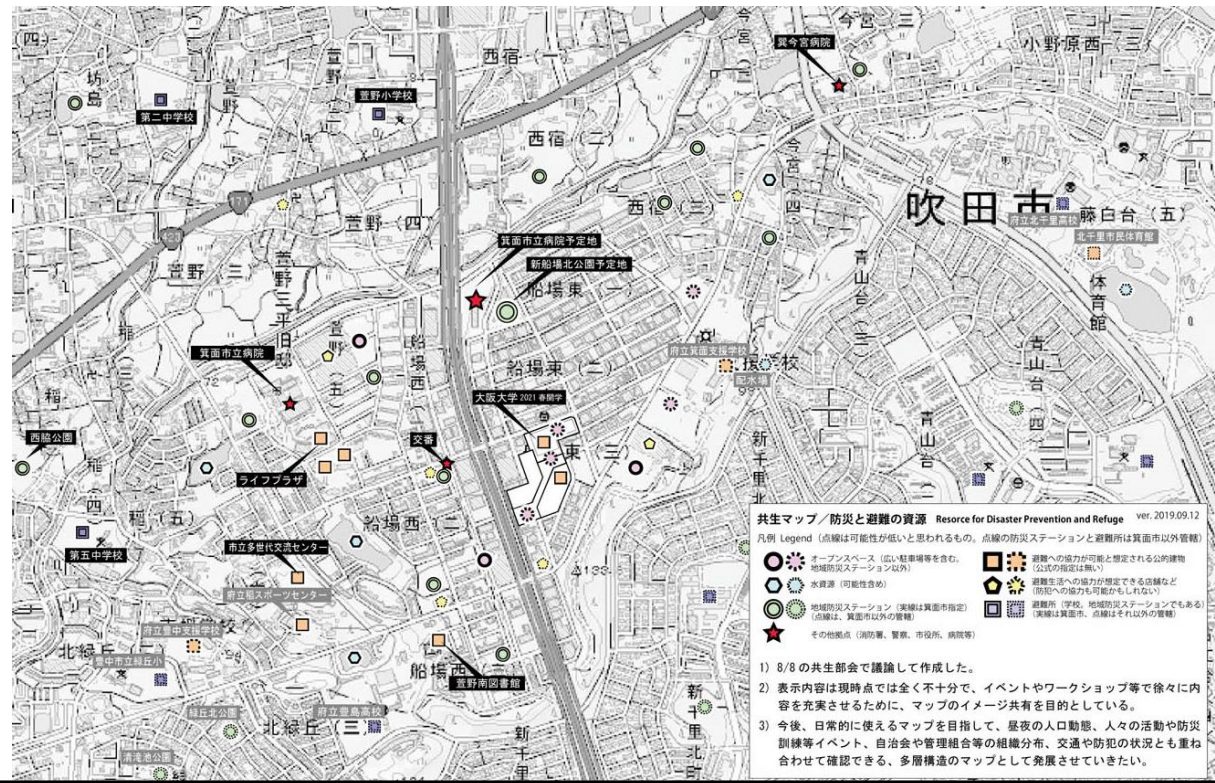
交通分科会；病院移転や小学校建設を見越した船場東の歩行者動線強化、安全性と回遊性の向上



防災 → 共生文科会；日常使いができる重層的な 「共生（防災）マップ」構築や、大学と連携した防災体制づくり

重層的なマップのデータベース化を検討中

- ・ 災害時にオフラインで使えるように構築
- ・ 地域の人々が、日々の活動やイベント使いの中で日常的に更新
- ・ 多言語化、多様な避難資源、コミュニティ組織や昼夜人口、交通流量等も重ねてみることで、まちづくりに活かせるものに
- ・ 新たな事業者誘致や、コミュニティの事業化にも活かしていく



あたらしい「まち」のあり方とは

下記を、**バランスよく共有し発信することが、仲間を増やし事業者を募ることにつながると考**

大学が、専門家へのマッチングを通じて、課題研究や事業者仲介等お手伝いできることも。

- A 自立的コミュニティ（人的・金銭的の確立、ゆるやかな横串的ネットワークと、事業化
- B 世界から来る留学生等、世界へ出ていく市民の多様な属性の交流が新たな価値を生むまち
（例；マーケティングやイノベーション、教育等に寄与）
- C 多様性のあるまち（人の多様さ、マンション・商業等の単一機能的でない多様さ）
→ 居住・産業・学術・文化のバランスがとれたまち
- D 豊かな文化性、未来へつながる子育て環境、非常時の連携につながる日常の活動

4. 課題【配布資料では一部を割愛】

4-1 交通環境の改善と、鉄道延伸事業遅延の対策
(箕面市は元々、東西の鉄道移動に難あり)

4-2 学内の推進体制と、共創機構の体制、
“OUグローバルキャンパス”

… いかに地域の課題と専門家をマッチングして
いけるか

4-3 箕面市の体制や関連諸団体の連携、まちづくり
のビジョン、まち開きへ向けて

これからの産学共創・社会学共創

- 産・官・民との組織対組織の連携
- 課題探求や基礎研究段階からの共創



連携の深化と大規模化

“What to do”

“Why we do”

従来型の産学連携

- ・研究者対企業の一部門
- ・設定された課題



大阪大学HPより

2016年からずっと考え続けている大きな課題

- A 市民・地権者・箕面市・大学が再開発区域でいかにエリアマネジメントを展開できるか
- B 再開発デッキ周辺の共用空間を学生の活動や大学と地域の共創に、いかに結び付け得るか
- C 船場東や、箕面船場全体のまちづくり将来像を、多様な市民・事業者といかに共有できるか

まちづくりとしての課題や進捗（2016以来の課題）

- (1) 市は、小学校や病院の再配置等問題との関係や、民間地権者の多様な意向等により、全体コンセプトを示しにくい様子。
- (2) 組合（民間地権者）は、広域50haの長期プランの検討を開始している。
- (3) ホール運営事業者や民間地権者のディベロッパーと大学が、担当レベルで直接の対話を開始。
- (4) 船場西連合自治会を中心として、エリアマネジメントやコミュニティ再生を考える「箕面船場まちづくり協議会」が動きだしている。

2017年以来、(4)以外はあまり進んでいない

5. まとめと考察

～とくに必要性を感じていること～

5-1 縦割りを乗り越える努力と意思疎通

5-2 全体コーディネートと広報

5-3 外部を巻き込んでいく体制へ